

# 令和6年6月4日 第2回 草津市総合計画策定推進委員会

開催日時 令和6年6月4日(火) 午前9時35分から午前10時5分まで

開催場所 庁議室

出席者 市長、副市長、総合政策部長、総合政策部理事(草津未来研究所担当)、総合政策部理事(経営・DX戦略担当)、危機管理監、総務部長兼法令遵守監、まちづくり協働部長、環境経済部長、健康福祉部長、健康福祉部理事(健幸都市づくり・地域共生社会推進担当)、子ども未来部長、都市計画部総括副部長(都市計画部長代理)、建設部技監、建設部長、建設部理事(住宅担当)、上下水道部長、教育部長、教育部理事(学校教育担当)、議会事務局長

欠席者 教育長

議事概要 下記のとおり

## 1. 協議事項

### 第6次草津市総合計画第2期基本計画におけるリーディング・プロジェクト(案)等について

#### (1) リーディング・プロジェクト(案)について

【資料:論点整理資料、資料1、資料1ー参考1、2】

【総合政策部長から資料に基づき説明】

- ・第2期基本計画においても、第1期基本計画の4つのリーディング・プロジェクトを継承するとともに、新たに5つ目のプロジェクト「(仮称)DX推進プロジェクト」を置き、すべての分野において、DXの推進のため、デジタル化を阻害している規制・制度の改革や、デジタル技術やデータの活用の可能性を検討するものとしている。
- ・(仮称)DX推進プロジェクトは、他の4つのリーディング・プロジェクトの下に、幅広に表示しており、このプロジェクトが、すべての分野を下支えする視点として、4つのリーディング・プロジェクトを含めた、あらゆる分野でDXの手法を検討することを表している。
- ・『未来を担う子ども育成プロジェクト』において、1段落目では、「こどもまんなか社会の実現」や「こどもの居場所づくり・貧困対策」など、国のこども政策の展開も踏まえ、こども基本法が目指す社会の姿とも整合を図りながら、『全国的に少子化が進行する中、子どもや若者は一人ひとりが大切な存在であり、すべての子どもたちが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていくことがとても重要』と記載している。2段落目の前半では、総括評価におけるこのプロジェクトの評価から、『少子化や核家族化、地域とのつながりの希薄化や高齢出産の増加等により、孤立感や育児不安等を抱く妊婦・子育て家庭も増加しており、子育て家庭の抱える課題も多岐に渡っているなど、子育て支援に関するニーズは一層高まっています。』としている。教育分野において、“未来を担う人材づくり”や“持続可能な社会の創り手の育成”といった教育振興基本計画の基本的な考え方と整合を図りながら、『現代は将来の予測が困難な時代であり、これから生きる子どもたちには、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく力が求められていること』を記載している。「こどもまんなか社会の実現」の観点から『子ども・若者の声や思いを聞きながら、ともに、』という記載している。
- ・『地域の支え合い推進プロジェクト』において、1段落目の前半では、総括評価におけるこのプロジェクトの評価から、『コロナ禍を経た価値観の多様化等により、コミュニティの希薄化が一層深刻となっています。人や地域とのつながりがない「望まない孤独」や「社会的孤立」は、心身の健康面への影響が生じるリスクが高くなることから、人と人がつながりを持つことが重要』と記載している。1段落目の後半では、『コ

コミュニティの活性化と発展を図る』必要性を記載するとともに、国の孤独・孤立対策やこれまでから進めている地域共生社会の実現に向けた取り組みとの整合を図りながら、『地域における支え合いの基盤・つながりを再構築することで、子どもから高齢者まで、また、障害者や外国人、生活に困難を抱える人など、誰もが役割を持ち、時に支え合うことで孤立せずにその人らしい生活を送ることができる社会の実現が求められている』ことを記載している。また、2段落目でも、「ダイバーシティ(多様性)」や「ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)」、「誰一人取り残さない社会」といった考え方を反映させて、『こうしたすべての人が一人ひとり違った個性や能力を持つ個人として尊重され、自分らしく生きることができ、能力を発揮して参画・活躍できる社会の実現に向けた取組を推進する必要がある』ことを記載している。

・『にぎわい・再生プロジェクト』について、企業立地に関して『多様で魅力ある企業の集積を促進』と記載し、市民意識調査で「公共交通ネットワークの構築」に係る満足度が低いことから、『公共交通ネットワークの形成等により、市内の交通渋滞の緩和を図るなど』に取り組み、シティセールスなどを念頭に『まちの魅力を向上させていく』ことを記載した。

・『暮らしの安全・安心向上プロジェクト』について、1段落目では、『年々災害が激甚化・頻発化している』こと、総括評価におけるこのプロジェクトの評価から、『市民の暮らしの安全と安心をより強固に守る必要がある』ことを記載している。2段落目についても、『2050年カーボン・ニュートラルの実現に向けて、地方自治体に期待される役割が大きくなっています。脱炭素・資源循環型社会の構築に向けた継続的な取組など、豊かな自然を守り、次の世代により良い環境を引き継ぐための取組を進めることが重要』であることを記載した。幹事会において、「ゼロカーボンシティの推進」をリーディング・プロジェクトに位置付けるべきとの意見はあったが、策定方針の検討の際に、環境の分野を中心に全庁的に考えや取組を波及させていくべきものであり、基本方針や個別計画において、横ぐしを指す方が適切であると整理している。ただし、「ゼロカーボンシティの推進」を念頭に、第2期基本計画のリーディングで記載している。第2段落にカーボン・ニュートラルに係る記載を追加したことで、環境に関する取り組みが、カーボン・ニュートラルだけと受け取られることを避けるため、草津市環境基本計画と整合を図りながら、『環境への負荷の少ない持続的に発展することができる地域環境文化の醸成を図る』ことを追記した。

・『(仮称)DX推進プロジェクト』について、1段落目の前半では、本市の行政経営面での現状として、草津市行政経営改革プラン」と整合を図りながら、1段落目の後半で、このプロジェクトと、他の4つのプロジェクトをはじめとする総合計画のすべての取り組みとの関係性を踏まえて、『将来ビジョンの実現に向けて、先のリーディング・プロジェクトをはじめとする総合計画の取組を効果的に推進するためには、行政経営改革の一端であるDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進が重要』と記載している。2段落目では、『すべての分野において、DXを推進するため、デジタル化を阻害している規制・制度の改革や、デジタル技術やデータの活用の可能性を検討します。その上で、住民の利便性向上や業務効率化を図り、質の高い行政サービスの提供につなげ、すべての人が利便性と快適性を享受しながら健幸を創造するまちを目指す』ことを記載した。文末を「まちを目指します。」として、他の4つのプロジェクトの文末の「まちをつくりまします。」とは異なる記載をしているが、これは、実際にまちをつくっていくのは、他の4つのプロジェクトの関連分野に属する施策や事業であり、(仮称)DX推進プロジェクトは、その取り組みを下支えする取り組みであること、また、そうした視点をもってあらゆる分野でDXの手法を検討していく取組であるためこうした記載としている。

#### 【主な質疑・意見】

・これまでの総合計画におけるリーディング・プロジェクトにおいては、現況、課題、対策の語順で、かつ文字数を考慮した文章構成であったと思う。今回のリーディング・プロジェクトは文章が長く伝わりにくい印象

を受けたが、これまでの総合計画のような構成にはしないのか。

⇒第1期基本計画におけるリーディング・プロジェクトでの課題や評価等を記載したため、文字数は多くなっている。できる限り、文字数は揃えるよう検討したいと考えていたが、プロジェクトごとに異なった特色があるため、文字数が揃えられないところがあった。この内容で進めたいと考えている。

・【資料1】の5ページで「環境への負荷の少ない持続的に発展することができる地域環境文化の実現を図る」とあるが、地域環境文化は「実現」するものではなく「醸成」するものだと思うがいかがか。

⇒草津市環境基本条例から抜粋した内容であるが、修正が必要かどうか再度確認する。

## (2) ウェルビーイングについて

### 【資料:論点整理資料、資料2、資料2-参考1~3】

#### 【総合政策部長から資料に基づき説明】

・ウェルビーイングについては、国が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、その実現をめざすとされるなど、その概念は全国的な広まりを見せている。

・将来ビジョンに「健幸創造都市」を掲げ、かねてから取組を進めている本市においても、地域幸福度(Well-Being)指標を活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-Being)」を数値化・可視化し、第2期基本計画の進捗を図るうえでの参考指標として活用してまいりたい。

・基本計画については、毎年度、「ベンチマークによる基本方針の達成度評価」および「施策評価」を実施し、進捗管理を行っており、第2期基本計画でも同様の方法での評価、進捗管理を想定している。この「施策評価」において、地域幸福度(Well-Being)指標の活用を考慮しており、具体的な活用方法は、第2期基本計画に地域幸福度(Well-Being)の主観指標と施策を紐づけ、毎年の「施策評価」において、地域幸福度(Well-Being)指標を総合計画の進捗を図るうえでの参考指標として活用することを考えている。なお、目標値は設定せず、経年変化等を確認しながら、施策を進めていく。

・具体的な記載については、【資料2】の記載のとおり。

・幹事会において「「ウェルビーイング」を、DXと同じようにリーディング・プロジェクトとして横串を刺さないのはなぜか。」とあったが、「「ウェルビーイング」は、将来ビジョンである「健幸創造都市」と方向性を同じくする概念であると考えている。総合計画は将来ビジョンである「健幸創造都市」の実現に向けた計画であり、そもそもすべての施策・事業が健幸創造都市の実現に向けて取り組んでいるところに、方向性を同じくする「ウェルビーイング」で横串を刺すことは、計画の建付けとして矛盾が生じることから、ウェルビーイングはリーディング・プロジェクトとして位置付けていません。」と整理している。

・施策評価シートへの反映については、【資料2-参考2】のとおり。

・ウェルビーイングについては、今後庁内研修を行うので、参加いただきたい。

#### 【主な質疑・意見】

・参考指標として活用するということが、施策評価シートへの活用など、積極的に活用しているように感じるが、取扱いはどのように考えているのか。

⇒「参考」という言葉の意味は本来、「他人の意見や他の資料を引き合わせ、自分の考えを決める手がかりにすること、また、そのための材料」という意味であることから、地域幸福度(Well-Being)指標を参考指標と表現した。総合計画においては、将来ビジョンに向けた取組を進めるとしており、ここに別の視点を取り入れることで、将来ビジョンの達成に向けた取り組みを考える材料として活用したいと考えている。

・立命館大学ではBKCキャンパスをウェルビーイングの拠点と位置付けており、BKCとの連携について計

画内で記載してもらいたい。

⇒内容を確認し、第2期基本計画に記載するかどうか検討する。

### (3) 地方創生について

【資料:論点整理資料、資料3、資料3-参考1】

【総合政策部長から資料に基づき説明】

- ・草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、第2期総合戦略から第1期基本計画に包含し、一体的に策定しており、第3期総合戦略についても同様に、基本計画に地方創生の章を設け、一体的に策定したいと考えている。
- ・第3期総合戦略から新規に設定する「地域ビジョン」の設定と、デジタルの力を活用した地方創生という目的が明確であることなどが必要であるため、それぞれ反映した。
- ・「地域ビジョン」は、第2期基本計画と一体的に策定することから、総合計画の「将来ビジョン」と同じものとしている。
- ・戦略目標は、「地域ビジョン」「将来ビジョン」の実現のための目標となることから、総合計画のまちづくりの基本目標に変更している。
- ・国の総合戦略は、デジタル田園都市国家構想総合戦略という呼び名に変更されているものの、法律上の位置付けとしては、国、都道府県、市町村のいずれも、まち・ひと・しごと創生法に規定する総合戦略であり、『(仮称)「デジタル田園都市国家構想の実現に向けた第3期草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略』という名称としている。

【主な質疑・意見】

なし

### (4) 第2期基本計画の構成について

【資料:論点整理資料、資料4】

【総合政策部長から資料に基づき説明】

- ・基本計画全体の説明を行う「第2期基本計画について」の章に、「ウェルビーイングについて」と「DXについて」の説明を追加する。
- ・第1期基本計画では、初めて第2期の総合戦略と一体的に策定することとなり、それ以前に単独で策定していた第1期の総合戦略の説明や評価も含めて、第2期の総合戦略の説明をする必要があったが、今回は、第1期基本計画の総括評価において、第2期の総合戦略の戦略目標でもあるリーディング・プロジェクトの評価を実施し、総括評価書に記載しているため、第2期基本計画には、第3期の総合戦略の説明のみを記載している。

【主な質疑・意見】

なし

## 2. 重要報告

### (1)「令和6年度 各部・局の組織目標」および「令和5年度 各部・局の組織目標の達成状況」について 【資料:資料5-1、2、資料5-参考】

#### 【総合政策部長から資料に基づき説明】

- ・【資料5-1】が「令和6年度 各部・局の組織目標」、【資料5-2】が「令和5年度 各部・局の組織目標の達成状況」について、それぞれ取りまとめたもので、議会への提供および市ホームページで公表する。
- ・なお、【資料5-参考】は、【資料5-2】から未達成の項目を抽出し、作成した資料であり、活用いただきたい。
- ・今後のスケジュールは、正副議長への説明後、議会ポスティングを行い、市ホームページにて公表する予定をしている。なお、修正があれば、本日中に総合政策部企画調整課まで連絡のこと。

#### 【主な質疑・意見】

なし

#### このページのお問い合わせ

概要作成担当	草津市 総合政策部 企画調整課 企画調整係
電話	077-561-2320
ファックス	077-561-2489
メール	kikaku@city.kusatsu.lg.jp